

びわ湖トラスト親子環境学習講座

～megumi に乗船 A・B～ 報告書



認定 NPO 法人 びわ湖トラスト

後援： 大津市教育委員会

協賛： 公益財団法人 平和堂財団

目的： 環境学習船 megumi に乗船し、琵琶湖の現状やプランクトンを観察。
環境学習を行うことにより、琵琶湖への興味を持つ機会を設け、保全につなげる。

		megumiA	megumiB
実施日		7月26日(水)	8月23日(水)
参加者		10組(20名) 子ども：10名、保護者10名	9組 子ども：9名、保護者9名
講師		滋賀県琵琶湖環境科学研究センター (工学博士) 一瀬 諭氏	
スタッフ	平和堂財団	1名	—
	びわ湖トラスト	理事	3名
		事務局	2名
	ボランティア	5名	3名
行程		9:15 受付開始 9:40 乗船開始 9:50 大津港 出港(白鬚神社・沖の白石経由) オリエンテーション プランクトン講義 11:45 ランチ(船内) 12:30 沖島 寄港 プランクトン採取・体験 14:00 沖島 出港 顕微鏡でプランクトン観察 スケッチ・アンケート 16:00 大津港 帰港 下船 解散	

今年度は新型コロナウイルスが5類になったこともあり、受付での対応が早く済み、全員問題なく時間内に乗船することができた。

行程は昨年度の大津と長浜を往復する2便、参加者は片道のみに入れ替えでは、時間に余裕がなく、船からの景色も楽しむことができなかったため、一昨年と同じ行程に戻した。

megumiA・B 両日ともに同じ行程で行った。当初予定していた megumiB は8月9日(水)

だったが、台風6号の接近により、沖島への入港が不可となり、そして強風により megumi が運航できない可能性もあるということから、8月23日（水）に延期となった。

台風のため延期になったことで、夏休みの予定を変更できず、直前に一組のキャンセルが入った。

定員は 10 組 20 名とした。親子環境学習上の注意事項やトラストの紹介、船の構造などの紹介し、この環境学習のスポンサーでもある平和堂財団の事務局長様にご挨拶いただいた。未来ある子どもたちのために megumi での環境学習をご支援くださっています。

講師は今年度からびわ湖トラストの理事でもある一瀬諭先生。先生は滋賀県琵琶湖環境科学センターで 40 年以上琵琶湖のプランクトンを調査研究されています。今年の 2 月と 6 月には、セルビアに行かれて現地の小学生から大学生、先生方にもプランクトンの講義をされています。



先生の講義は小学生にも分かりやすくプランクトンの不思議な生活史、食物連鎖、生物多様性やセルビアでのお話もしてくださいました。次に先生と Jr ドクターのボランティアで出港前に採取した南湖(浜大津)のプランクトンを先生に顕微鏡からモニターで観察し、見つけたプランクトンをプランクトン図表にマーカーでマルを付け、名前を書いていった。ボランティア、スタッフもホワイトボードの図表にマルを付け名前を貼っていく。



途中、琵琶湖大橋の下、白髭神社、沖の白石に近づくと講義を中断して、船からの景色を楽しんだ。湖から見る白髭神社は湖岸から見えるのとは違い鳥居から真っ直ぐに神社が見えると神々しく感じた。



午前の講義を終え、船内にて各々に昼食を済ませ沖島に上陸。

まずは、湖岸に出て、午後から調査する沖島（北湖）のプランクトン採取の見学、体験。

プランクトンネット NXXX25 を用いてバケツ40リットルの水を40ミリリットルへと濃縮する。

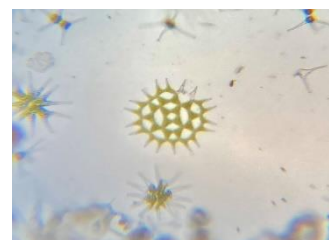
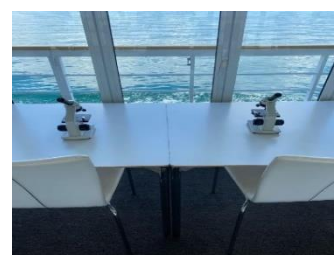


その後、島内を自由探索。神社に行く、棧橋付近で過ごす、漁港会館で過ごすなど出港までの時間を親子で楽しみました。今年は例年よりも暑さが厳しく、参加者の多くがアイスクリームを食べていたように思った。



船に戻り午後からの講義。まずは、北湖（沖島）のプランクトンを先生の顕微鏡からモニターで観察。図表に南湖とは違う色のマーカーでマルをつける。

次に南湖と北湖の顕微鏡観察。時間を決めて南湖と北湖に分かれて観察した。



顕微鏡のピントの合わせ方、プランクトンの名前など分からないことは手を挙げて一瀬先生、今井理事（北海道大学名誉教授）、Jr ドクターのボランティアが答えてアドバイスした。20分ずつの観察はあっという間に終わった。今回はスケッチする時間もあり、それぞれが見つけたプランクトンをスケッチした。

まとめとして南湖と北湖のプランクトンの違いについて考えた。種類、数などの違い、水温や水深など参加者それぞれが自分の考えを話した。

今年は天気も良く、例年よりも暑い一日だったが熱中症になることもなく事故やけがもなく皆、実した楽しい一日を過ごすことができた。

一瀬先生が新しい資料を作ってください、参加者への質問もたくさんしてください最初はマイクを向けられて答えられなかった子どもたちがセルビアの子どもたちの話を聞いてからどんどん手を挙げ答え、質問するようになった。自由研究のアドバイスもしてくださいなぜ、と疑問に思ったことを質問することが大切。親はそれに対して答えること、一緒に考えることが大切だと言われた。

今井理事の挨拶の後、参加者全員が一言ずつ今日の感想を言い、最後に今日一番頑張って質問していた参加者に一瀬先生から素敵なプレゼントが渡された。

